No.18

古高取通信

平成26年11月

古高取を伝える会会報

目　次

古高取の魅力を伝える　……2
古高取紹介　……3
窯元紹介　……3
活動の記録　……4
なんでも掲示板　……6

「古高取の足跡」

高取焼発祥の地を誇りに、市内の小学校で六年生対象焼物教室を開催して六年目になりました。今では全校で自作のお抹茶茶わんでお茶会を実施するまでに至っています。

子供たちにとって小学校時代の思い出深い体験となったことと思います。

高取焼の伝統文化を伝承する活動がようやく実ってきたことを実感しています。

今秋は内ヶ磯窯開窯四〇〇年を記念して、市内で五千人茶会が開催されました。

また直方市中央公民館の二階にある郷土資料室が、八月一日より常時公開することになりました。貴重な高取焼の発掘出土品が収蔵展示してあり、是非観覧して古高取の魅力を感じてほしいものです。

永冨　セツ子

古高取の魅力を伝える

直方市の大切な文化財を守り、伝えていきたい

直方市教育委員会　無津呂　健太郎

私が、高取焼と本格的に向き合ったのは一年半前、直方市に新規採用職員として入庁してからでした。直方市の採用試験を受験するにあたり、高取焼、宅間窯、内ヶ磯窯について調べはしたものの、琉球大学で考古学を学び、主に弥生時代をテーマとし勉強してきた私にとって、高取焼の詳しい歴史や近世陶磁器の中でどのような位置づけを持つものなのかなど、知ることのないものでした。高取焼をはじめとした近世陶器と古代の土器では、胎土、釉薬、焼成など多岐にわたる違いがあり、私にとって高取焼を知ることは、まさにゼロからのスタートでした。

現在の内ヶ磯窯跡（福智山ダム）

高取焼は、江戸時代において多種多様に存在している焼き物の一つであり、縄文時代から始まった日本の焼き物の歴史からみると古いと言えるものではありません。しかし、先人たちが作り上げてきた、各地の焼き物の影響を受けながら独自の発展を遂げてきた歴史には興味深いものがあり、高取焼は、同時代の全国各地の焼き物と、堂々と比肩する焼き物だと言えるでしょう。私も、郷土資料室にある大量の陶器片と初めて対面したとき、高取焼の様々な造形と釉薬に心惹かれたことを鮮明に覚えています。

考古学においては、全般的に言えることですが、陶器一片のかけらから当時の人々がどのような想いでそれを制作し使用していたのかを推測する際、そこには政治的戦略、生活のための生業として、単に器として使用するなどの様々な解釈が存在します。では、ここ直方の地、四百年前確かに多様な作陶活動が行われていた宅間窯や内ヶ磯窯はどうであっただろうかと想いを巡らせていると、とても胸躍る気持ちです。高取焼と向き合い始めて一年半、徐々にではありますが知識も増え、知れば知るほどに面白く興味深いものであることを実感しています。それと同時に、解明されていない事実も多く、謎に突き当たるたび、高取焼研究の難しさを思い知らされています。

直方市中央公民館　郷土資料室

直方市内には、縄文時代から近代まで様々な遺跡があり、今日の私たちは、かつてこの地に生きた人々の暮らしの積み重ねの上に生活をしています。遺跡に残る先人たちの足跡、そのどれもが直方に暮らす私たちにとって貴重な財産です。直方市の文化財担当職員として、直方市で暮らす人々が直方を誇りに思えるよう、文化財を守り、伝えていく役目を果たしていきたいと思います。そして、高取焼も直方市における大切な文化財として、当然のことながら直方市の歴史を語る上で絶対に欠かすことが出来ない、後世にまで伝えていかねばならない重要な財産です。高取焼とは福岡、九州、ひいては日本全国の中でどういった位置づけができ、現代社会とどうリンクしていくのかに対して、小さなことでも新たな知見を得、自分なりの答えを見つけていきたいと思います。

古高取紹介

【内ヶ磯窯跡出土肩衝茶入】

高取焼は慶長の役で黒田長政に従い来日した陶工八山（高取八蔵）が、命により鷹取山麓の永満寺宅間に開窯した。現在の直方市永満寺宅間に位置する。黒田家の御用窯として終始盛況を見せたもので、以来数度にわたり窯場を移転させ、慶長十九年、同地内ヶ磯に窯を移した。窯は焚口を入れて十五室を数え、全長四六・五mの階段状連房の登り窯であった。直方市教育員会が昭和五十四年～五十六年の三年かけて発掘調査が実施された。直方市で調査された窯本体と周辺部で出土した茶入れについて説明を加える。

茶入の陶片数は百七十八点出土している。口縁部三点、底部二十八点以外は胴部破片である。この茶入れが窯のどの位置で焼かれたのか疑問が発掘調査によって解明された。焚口の上の十三室とその上の十二室床面で焼かれたことが輪状焼台と扁平焼台が並んだ状態で検出された。特に十二室で、ほぼ完形品に近い肩衝茶入が出土している。写真が復元された姿です。

この茶入の名称は肩衝茶入で口径三・一cm、器高九・八cm、底径四・〇cmで、出土茶入中で最大の資料。八mmとやや長めの頸部を持ち、口唇部は外方へ引き出され、最大径を胴中央部よりやや上方に、一条のヘラにて沈線を巡らす。器壁は二～六mm、六振りだが、球状に優る柔らかみをもつ、釉調は暗草緑色を呈し、色調は暗茶褐色で釉薬は鉄釉で、胎土は水引き用で水簸した極めてきめ細かい鉄分の少ない土で、釉薬の持味を出しやすく焼き上がると磁器のようになるものである。落ち着いた姿と土味を見せている。

副島邦弘

出土肩衝茶入

窯元紹介

高取焼内ヶ磯窯　友枝　觀水

福智山山系にある直方市は高取焼発祥の地で、宅間窯、内ヶ磯窯の二つが、江戸時代初期に開業されました。

当窯元は、優れた製品を後世に残した古内ヶ磯窯の格調高い織部好みの作風を現在に生かした、へうげものの唯一の窯です。

縁あって四十二年前に当地に窯を開きましたが、当地の恵まれた自然環境を生かし、土や釉薬、登り窯にこだわり、日々精進に励んでおります。これを機会に当窯の作品をご覧になっていただければ幸いです。

友枝さんは、「いろいろな意味で現代は四百年前の当時と似ているような気がする。へうげものの焼物も好まれる時代ではないかも知れないが、自分はへうげものの焼物を造る」とおっしゃっていました。

また作陶とは直接関係はありませんが、高取焼や当地の歴史など興味深い話も伺いました。あっと言う間のひとときでした。

お忙しいところ、ご対応いただきありがとうございました。

高取焼内ヶ磯窯　友枝觀水
〒八二二-〇〇〇三
直方市大字上頓野一八一一の七
電話　〇九四九-二六-一一一四

活動の記録

●子供焼物教室

〈平成二十六年六月～十月〉
場所：直方市内の小学校

今年は内ヶ磯窯開窯四百年を迎え、焼物部会は特別な思いで小学校を回り焼物教室を実施してきました。

六年目になる六年生対象焼物教室で子供たちが制作した茶わんは、五千個を越えました。

特に今年は保護者会を兼ねて実施したところが多かったので、子供たちといっしょに保護者に向けて直方が高取焼の発祥の地であることや開窯四百年であることなどを大いに発信できたことがとてもよかった。

子供たちの作品も年々洗練されてきてスタッフ一同うれしく思っています。またマイ茶わんでお茶会を経験していく六年生にとってすてきな思い出になるでしょう。

来年度も元気な子供たちと焼物教室を開催したいと思います。

永富セツ子

●学習部会

〈平成二十六年六月～九月〉
場所：直方歳時館

学習部会では、本年度内ヶ磯窯開窯四〇〇年記念事業と協力して実施会場を変更し、新町の直方歳時館で行っている。

本会が「お茶席でおもてなし体験してみませんか」という事業で一年間（四月～三月）通し月一回（第三日曜日・十三時～十四時）実施する中に六月～九月の四回、一時間延長して学習部会の研修講座を入れてコラボして実施している。

これまでの講座では、「黒田官兵衛と宗湛の茶」という題目で「宗湛日記」の中から官兵衛（如水）と宗湛の茶会を中心に四回に亘って実施した。

内容は慶長六～九年の四年間で如水・息子の長政との茶会記を読み下していった。

副島邦弘

今後の予定は次の通り。

【平成二十七年一月十一日(日)】
最終講義「官兵衛と六端城」
講師：九州大学教授 中野等氏
場所：直方中央公民館
時間：十三時三十分～

【平成二十七年三月二十九日(日)】
福岡散策（福岡城～光雲神社～崇福寺等）（予定）

●高取焼陶芸体験とソーメン流し

（第2回ちょつくらふれ旅）

〈平成二十六年八月二十日(水)〉
場所：金剛山もとどりハウス
参加人数：二十二名（大人）、三十三名（子供）

今年で二回目となる感じるふれ旅。八月に入り雨天の日々が続き、当日の朝も大雨が降り開催が危ぶまれましたが決行しました。

準備するころ雨は止み心配していた参加者もほとんど集合しスタッフ一同ほっとすること頻りでした。陶芸教室が始りワイワイと賑々かに保護者と一緒に子供たちも製作に夢中。

作っては壊しつぶし、ハラハラしながらも出来上がってみれば子供たちや保護者の方々のすばらしい作品が完成していました。お茶碗、お皿、花瓶、コップ等思い思いの高取焼でした。この後はソーメン流しとなり、子供たちのうれしい歓声が響き渡り、あっという

間の完食。もとどり保全協議会の高齢者の方々と子供たちとのふれあいもあり、とても和やかな一時でした。ゲームばかりの子供たちが多い中、屋外での活動体験をもっとしてほしいし夏休みのいい思い出になったのではと思いました。

スタッフのみなさんの大健闘をたたえたいと思います。たいへんおつかれさまでした。

永冨セツ子

●お茶室でおもてなし体験してみませんか

〈平成二十六年四月～平成二十七年三月までの毎月、第三日曜日　〉
場所：直方歳時館　※十一月は、直方中央公民館にて開催

直方歳時館にて内ヶ磯窯開窯四百年記念事業〝お茶室でおもてなし体験してみませんか〟と呼びかけ四月より月一回皆様と癒しのひとときを過ごしています。

毎回参加してくださる親子、飯塚から新聞のお知らせを見て来ましたという方など多くの人達との出会いがあります。素敵なマイ茶碗持参の方もあります。

古高取研修講座はＮＨＫドラマ「軍師官兵衛」の放映に因み「官兵衛と宗湛の茶」と題して副島先生に四回講演していただきました。皆様の好評を得て終了いたしました。

今江洋智さんの茶の湯の絵本の中に「お茶をのむときもちが、おちつくものらしい・・・。」というところがあります。小さなこどももなんとなく感じるおもてなしの中に芽生える心の種を、皆様にも体験してもらいたいと思います。

来年の三月まで月一回開催予定です。ご参加マイ茶碗でどうぞ!!

田中紀子

●高取焼内ヶ磯窯開窯四〇〇年記念バスツアー

〈平成二十六年九月二十八日(日)〉
集合場所：直方中央公民館
費用：二千円（一人）
募集人数：四十五名
訪問先：小石原、秋月、甘木歴史資料館等

内ヶ磯窯の開窯四〇〇年を記念し、黒田家ゆかりの地を巡るバスツアーを行いました。直方市のみならず中間市や鞍手町より三十九名の参加があり、バスの中では高取焼や黒田家にまつわる説明も聞き、大変なごやかな雰囲気でした。小石原では高取焼の始祖『高取八山』のお墓にお参りし、窯元見学ののち朝倉市へと向かい、黒田長政の三男・長興に与えられ支藩がおかれてできた城下町の秋月を見学しましたが、大変残念なことに高取焼が多数展示してある秋月美術館は休館でした。秋月城址や郷土館を見学し、甘木市歴史資料館で「官兵衛を救った男たち・黒田一成と加藤家展」を見学後、帰途につきました。

当日は好天に恵まれ、大変楽しい一日でした。

向野志津絵

金剛山もとどり協議会だより

●里山ガイドを楽しむ栗拾い・里山散策・森のご馳走ランチ

〈平成二十六年十月四日(土)〉
場所：金剛山もととりハウス
費用：千円（一人）
募集人数：三十名

十月というのに予想はずれの暑い一日。メニュー変更のソーメン流しは大成功。

今年は天候不順で栗の花つきが悪いという心配がありながら（栗

拾い）を予告したから大変。いのししに負けないようにせっせと栗拾い。当日は栗ばらまきでイベントを強行。募集人数よりはるかに多くの人を受け入れた。栗拾いは満足いかなくても山のご馳走ランチでカバーできたようです。

末松登志子

なんでも掲示板

●高取焼陶芸体験とソーメン流しに参加して

（第2回ちょつくらふれ旅）

〈平成二十六年八月二十日（水）〉
場所：金剛山もとどりハウス
参加人数：二十二名（大人）、三十三名（子供）

今年の夏は雨ばかり。一週間雨が続き、前日も大雨。当日の八月二十日（水）も朝は厚い雲と風。参加者は来てくれるだろうかという心配をよそに、参加者五十二名（大人十九名、子供三十三名）、スタッフ二十二名（古高取を伝える会・金剛山もとどり協議会）が集まりました。いつもは、少ない山水が大量に流れるのを見て、子供たちは大喜びでした。陶芸体験の参加者は四十三名。お茶碗、花びん、お皿、置物などをスタッフの話を聞きながら、自由にアイデアを凝らしたマイ作品作りに取り組んでいました。陶芸の後は、ソーメン流し。雨が降れば中止かなと思われる中で、もとどり協議会の手際よい準備でソーメンを楽しんで食べることができました。焼きスパやお結びなどお昼もたっぷりありました。ほぼ曇りのベストな一日で、里山が狭くなるほどの賑わいでした。大盛り上がりのイベントは大成功でした。陶芸作品は十一月三十日（日）に展示会を行い、その後引き渡しの予定です。

倉田豊子

参加者の感想を少し紹介します。

～・～・～・～・～・～・～・～

焼き物の粘土は、手触りが気持よくて、作るのが楽しかったです。ソーメン流しや焼きスパ、最高においしかったです。

6年生　三角　賢斗（けんと）

はじめは、難しそうだったけど、作っていくと楽しくなってきました。川で水遊びがおもしろかったです。

1年生　三角　頌（しょう）

●第三十三回須崎町公園ステージにてPR活動

〈平成二十六年九月二十七日（土）〉
場所：直方市須崎町公園
観覧：無料

秋晴れの週末、第三十三回須崎町ステージが開催されました。

当日は、直方市須崎町映画祭との同時開催で、市内外から多くのお客様が商店街を訪れ賑わいました。

また高取焼のPR活動として、パネル展示等も行われました。

●高取焼内ヶ磯窯開窯四〇〇年記念「五千人茶会」

〈平成二十六年十月十二日(日)〉
場所：直方駅前商店街内(古町・明治町)の特設会場
参加費：三百円(お茶、お菓子代)

台風が九州に接近した日曜日、直方駅前の商店街内の各所で五千人茶会が開催され、お茶会や城郭展示、直方日若踊の総踊り、植木三申踊り、スタンプラリー等が大々的に行われました。

この日ばかりは、市内外から多数のお客様が商店街に足を運ばれ、高取焼や直方の歴史・文化等に触れられました。

●第四十九回 高取焼陶器まつり

〈平成二十六年十月二十四日(金)～二十六日(日)〉
場所：直方市畑・永満寺地区

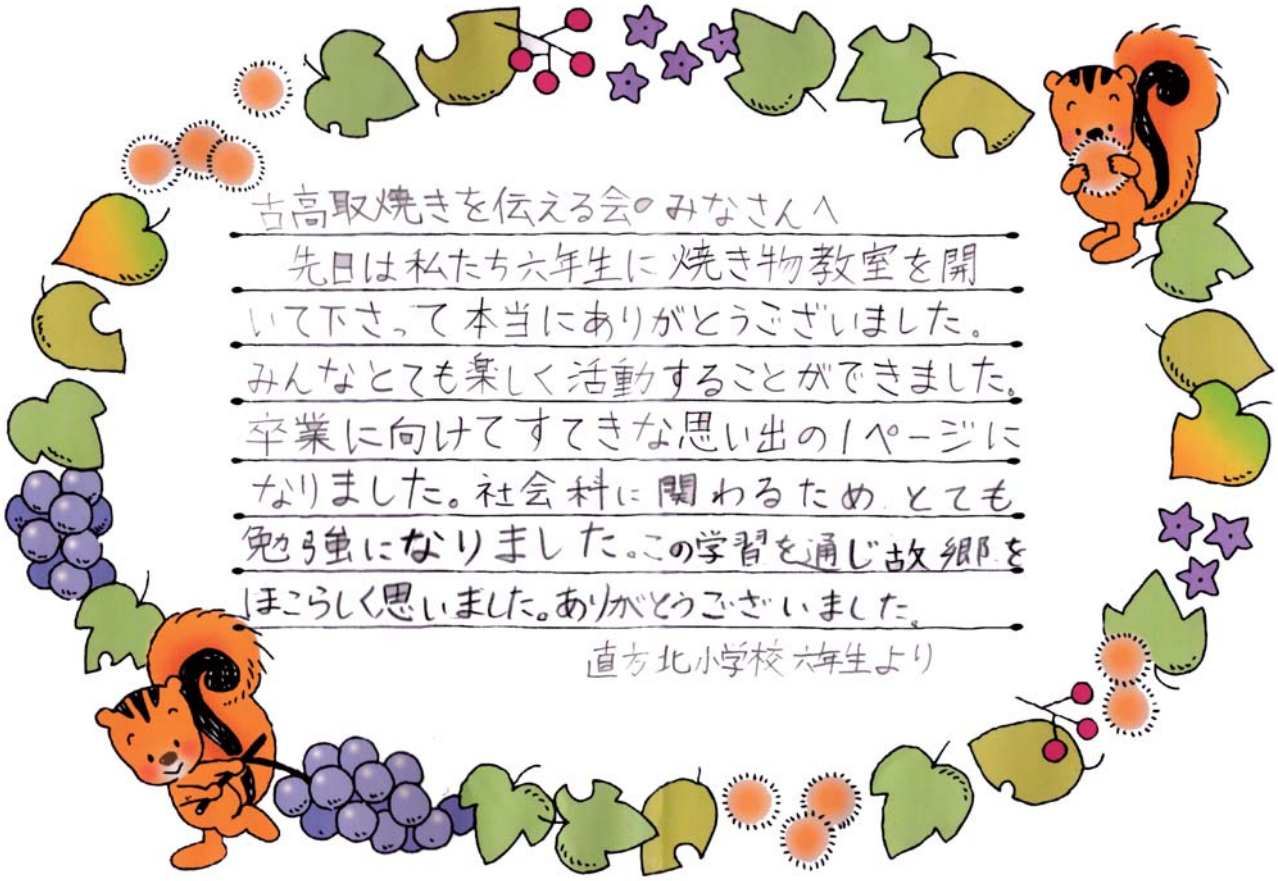
直方市の地元窯元や公民館等で年二回、春と秋に開催されている高取焼の陶器まつりです。

窯元さんの素敵な作品や地域の特産品などが楽しめます。

皆様、どうぞこの機会には足を運んでみてください。

子供焼物教室に参加した生徒さん達からお手紙を頂きました。

紙面の関係で全部を紹介できませんので、直方北小学校六年生一同から頂いたものを紹介します。



古高取焼きを伝える会。みなさんへ
先日は私たち六年生に焼き物教室を開いて下さって本当にありがとうございました。みんなとても楽しく活動することができました。卒業に向けてすてきな思い出の1ページになりました。社会科に関わるため、とても勉強になりました。この学習を通じ故郷をほこらしく思いました。ありがとうございました。
直方北小学校六年生より

【訃報】のお知らせ

重松佳子様
片手正春様

重松佳子さんは、昭和五十四年から三年間、直方市が窯跡発掘をした時の様子を会報四号（平成二十一年九月）に詳しく書いて下さいました。

会に所属し手さぐりで子供焼物教室に関わっていて宅間窯のことも内ヶ磯窯のことも知識の浅いことを痛感したときにお会いした方です。

五十年前の体験の記事です。三百五十年前とあります。今年は内ヶ磯窯開窯四百年、東京オリンピックから五十年。年月の経過を感じます。

自宅に遊びにいらしゃいと言われていたのに一度も会いに行けず残念です。もっとたくさんのお話を聞いておきたかったです。

官兵衛放送で内ヶ磯窯が再びスポットをあび、遅まきながら十月十二日の市をあげての五千人茶会はご存命なら喜ばれただろうと思います。

片手正春さんは、出身がやきものの古里波佐見焼の近くで、縁あって直方市上頓野に住み、会にも喜んで入会されいろんな行事に参加されていました。

総会で議長もお願いしました。

会報五号（平成二十二年一月）では不器用なのに、お気に入りの茶碗が出来たと大喜びでした。

平成二十一年十一月二十二日の日記、窯跡清掃と紅葉ウォーキングより抜粋。

石碑がなければ誰もわからない。ただのウォーキングならそのまま通り過ぎる。

宅間窯の説明を聞きながら私は昨年木屋瀬で演じられたシーンを重ねて潤んだ。

「古の陶工の跡道の傍」
「錦秋に古窯辿る里の路」

お二人のご冥福をお祈りします。

「古高取を伝える会」の今後をしっかり見ていてください。

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報などございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

今年は官兵衛ブームで直方市でも少しばかりイベントがありました。高取焼は黒田藩御用窯であったことから、会としてもいくつかのイベントを開催しましたが、十一月十五日(土)からは「内ヶ磯窯発掘出土品展」を開催します。皆様のご来場をお待ち致しております。

「古高取通信」会報・NO18
〈発行〉
古高取を伝える会
〈発行日〉
平成二十六年十一月七日
〈現在の会員数〉
正会員　五十四名（五十四日）
賛助会員　十八名（二十七日）
団体　一団体（一日）
〈マイ茶碗の数〉
五千二百七十一個
〈事務局〉
〒八二二-〇〇二六
福岡県直方市津田町七-十四
TEL〇九四九(二三)一三一一